

2004年6月14日

ディケンズ・フェロウシップ日本支部 ニューズレター

2004年度の春季大会は6月4日、英国大使館のご好意により、千鳥ヶ淵にある大使館内において開催された。警護の厳重さは当然として、環境・建築物の美しさは目を見張るばかりであった。入梅直前の快晴の一日、ここで「ディケンズの想像力」を探るプログラムが繰り広げられた。駐日大使は公用で出席がかなわず、秘書を通じて成功を祈るとの返書をいただいた。参加は日本支部会員のみに限定され、10日前には全出席者のリストを提出しておかねばならなかったが、70名にのぼる会員が参加し大会を熱い雰囲気包んだ。以下、大会の報告および諸報告をお知らせいたします。

春季大会

西條支部長は、女王陛下、駐日大使 Sir Gomersall、および Elliott 氏 (ブリティッシュ・カウンシル) に対し大使館での開催を実現していただいたことに謝意を述べたあと、日本支部は日英関係がディケンズ文学を通して緊密に結びつくことを大きなよこびとすること、またヴィクトリア女王のディケンズに対する関心は深く、英王室をはじめ英国人はことごとくディケンズ文学の重要性をとらえていた点を力説し、大会の成功とともに本大会が二国間の友好の絆を深める契機となることを期待して、挨拶にかえた。

ついでエリオット氏 (彼の尽力なしでは大会開催は不可能であった) は、今年が *Hard Times* 出版 150 周年に当たることをとらえ、その冒頭部分を引用しながら「私は本日 **five facts** を述べます」といって、(1) 自分はポーツマスで生まれた、(2) 父は海軍経理部に勤めていた、(3) ついでロンドンに移り住んだ、(4) 私もジャーナリストになった、(5) のち独立した生活に転じたとユーモアを交えつつ語り、大使館における春季大会の歓迎と成功を祈った。

1. シンポジウム「ディケンズにおける想像力の原点を求めて」(14:00-15:50)

松村豊子氏 (江戸川大学) の司会兼講師、梶山秀雄氏 (島根大学)、原英一氏 (東北大学) により上記課題でシンポジウムが開かれた。田辺洋子氏が体調不良で出席がかなわず残念であったが、上記三者が *BR*, *MC*, *DS* をベースにディケンズ想像力の原点を探った。原氏 (*BR*) は暴動者たちの集まりを描くテキストの「狂」宴的性格の指摘にはじまり、徒弟の祭典やロマンスの起源を王政復古劇の中に跡づける重厚な研究を披瀝し、梶山氏 (*MC*) は探偵小説的要素の巧みな展開と作品構成との関係を論じた。松村氏 (*DS*) は視点を変えて、飲食の場面に作品の臭い、あるいは作品気質を読み取ろうとする。ディケンズのヴァラエティが感得されるシンポジウムであった。

2. 講演および朗読 (16:10-16:50)

David Rycroft 氏 (甲南大学) の紹介・司会をうけて、Peter Robinson 教授 (東北大学) は *OMF* からの抜粋 (“Mr. Boffin’s encounter with Blight”) を朗読したあと、自身の詩作と詩集出版について講じつつ、*Blight* の虚構を興味深く分析した。

3. 特別講演 (16:50-18:00)

川本静子氏 (津田塾大学名誉教授) の司会の下に、松村昌家氏 (大手前大学) は「ディケンズと世紀末」と題して、1860年代における East London へのディケンズの興味と関心に焦点を当てた。アヘン戦争後に急激にふえたアヘン輸入とともに、東洋から西欧への移民も増え、アヘン窟はまぎれもなく西欧作家の想像力をかきたてた。アヘン吸飲によってももの考え方も変わり、勤労と怠惰の両極を揺れ動く二重生活が世にはびこりはじめる。オスカー・ワイルドの例はあまりに有名だが、それに先立つ『エドウィン・ドルード』は、すでに新しい小説の幕開けを記していると断言してよい。さまざまな文献を渉猟しつつ時代を先取るディケンズの感性をすどくえぐる講演であった。

4. 懇親会 (18:20-19:50)

54名の会員が参加し、女王陛下に乾杯をしたのち、宮崎初代支部長、小池前支部長よりそれぞれ挨拶と

乾杯の音頭があり、ついで松村昌家氏による“To the immortal memory of Charles Dickens”の乾杯が挙げられた。贅沢なワインがふんだんに用意され、盆に載せて運ばれてくる珍味を時折ほおぼりながら、なごやかで実り多い語らいの場が繰り広げられた。優雅なイギリス式パーティーの中でフェロウシップの友好もまた一段と深まった。

諸報告

- (1) 『年報』への論文原稿（フロッピー・ディスクおよび清書原稿）は原稿用紙35枚以内、締切は7月9日（必着）です。
- (2) 記事・ニュースの締切は7月30日とします。
- (3) 2004年度総会は10月3日、大手前大学において行います。10:30開会、10:50-11:50に研究発表をあてていますので、希望者は6月30日までにe-mailにて事務局までお申込みください。
- (4) 日本におけるディケンズ研究書誌を作成するため、会員（および会員以外の方の）2003年度の著書・論文等を集めています。ご協力をお願いいたします。送り先は下記の通りです。

松岡光治理事宛 (e-mail: matsuoka@cc.nagoya-u.ac.jp)

- (5) 今後の予定
2004年度総会 10月3日(日) 於大手前大学（日本ギヤスケル協会との合同大会）
2005年度春季大会 名古屋大学
2005年度総会 甲南大学

- (6) 志田均氏が2年前に亡くなられた由、お父様からご報告がありました。ご冥福を祈ります。

以 上